

施工パッケージ型積算方式に関する 補正式の計算過程について

北海道農政部の標準積算システムでは、積算単価の算出にあたり補正式の計算過程では単位処理（四捨五入等）は行いません。

※なお、積算単価は計算後、整数以下切り捨てとしています。

○単位処理による誤りのイメージ（単価は仮想単価）

【施工パッケージ単価算出の補正式】

$$\begin{array}{l} 600 \\ \text{標準単価} \end{array} \times \left(\frac{100}{100} \times \frac{16,000}{19,200} \right) = \begin{array}{l} \boxed{500} \\ \text{積算単価} \end{array}$$

※電卓で $16,000 \div 19,200$ を計算すると、 $0.833333\dots$ となりますが、電卓の有効桁として端数処理がされる場合があり、仮に 0.833333×600 と計算すると 499.9998 となるため、積算単価は整数以下切り捨ての $\boxed{499}$ （誤り）となります。このため、 $500 - 499 = 1$ 円の差異が生じます。